

# 和歌山だより

平成27年 3月号  
(2015)



紀州雛（海南市）

## CONTENTS

1. 知事メッセージ…………… P1
2. 和歌山県政トピックス…P2～P10
3. ふるさと歳時記…………… P11～P12

すべての子どもたちが心身ともに健やかに育つことを願い、桃の節句にちなんだ和歌山県ゆかりの「紀州雛（知事指定郷土伝統工芸品）」が、毎年、県庁でお出迎えしています。  
(今年は2月4日～3月3日)



## お・も・て・な・し

我々日本人は、未だ一昨年9月のIOC総会で、2020年の東京オリンピックの開催が決定したときの感激が忘れられません。その時、本県出身の体操の田中理恵さんなどの素敵な人々が立派な演説をして東京開催決定に貢献したのですが、中でもマスコミで繰り返し報道されるのが、滝川クリステルさんの、あの「お・も・て・な・し」とひと文字ずつ区切った上で手を合わせてお祈りする姿です。

私などはあのスピーチを見て、少し人工的な感じはするが、訴えたい事を印象的に表現しているなあと思ったのですが、最近読んだ本で、まったく違った評価があるのを知りました。その本の著者は長く日本に住んで、日本の伝統的建造物を守る仕事をしている英国出身の人なのですが、「お・も・て・な・し」のような単語を区切って強調する言い方は、海外では相手を見下している態度ととられてしまうので評判が悪いというのです。日本国内で評価されたといっても、この場合意味はないというのです。その人は、おもてなしというのは、本来お客さんが快く思ってもらえるかどうか的大事で、サービスを提供する方がこちらの都合や自己満足でいくら張り切ってもだめだというのです。

そう言えば、和歌山県も、和歌山県政も、世の中の人に訴えて、その人たちを動かしてはじめて成果を出しうるような課題にたくさん直面しています。その時、ともすれば自分の立場で相手に訴えかけようとしがちです。それでは効果がないのです。相手ならどういう材料を提供し、どう印象付け、どう説得すれば、心を動かしてくれるか、自分の眼ではなく相手の眼で対応しなければならないということなのでしょう。相手の眼で、相手の心で、真の「おもてなし」をしなければならないと思いました。



2/18 定例記者会見にて

## 今月の和歌山県政トピックス

\* 最近の県政の動きや県内の話題などをピックアップしてお届けします。

## ●平成27年度当初予算・新政策を発表！！

・今年、「紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会」の開催、そして「高野山開創1200年」という大きな節目となる年を迎えています。県では、これまで県内道路網をはじめとする社会インフラ整備から「おもてなし」などソフト対策に至るまで全力で準備を進めてきました。また、国においても「地方創生」をキーワードに活力ある地域社会づくりが本格始動しています。

・このような機会を逃さず、将来に向けて和歌山をさらに元気にしていくためには、引き続き地震・津波対策など災害への備えや少子高齢化・過疎化の進行といった課題の解決に努めるとともに、成長へと導くために様々な分野に投資することが重要です。こうした状況を踏まえ平成27年度は、県民が安心して暮らせる社会を構築するための「安全と安心」、成長への道筋をつけるための「未来への投資」の2つを柱にした政策を強力に推進していきます。

平成27年度当初予算 5,872億円

[対前年度比3.3%増]

※公共投資予算 1,246億円

[対前年度比5.7%増]

## 【「安全と安心」】

### 防災・減災対策の推進

#### 地震・津波対策

県民の皆さんの安全を守る上で、最大の危機は南海トラフの地震です。しかも、南海トラフが紀伊半島に近いため、津波の到達までに安全な場所への避難が、時間的に困難な地域(津波避難困難地域)が存在しています。

しかしながら、どんな時でも死者をゼロとしなければなりません。そのため、昨年度から「津波から『逃げ切る!』支援対策プログラム」を策定し、命を守る方策を考えてきました。

平成27年度を初年度として、具体的な対策を概ね10年で完成させます。また、津波ばかりではなく地震の第1撃から人の命を守ることが同じように大事です。そこで、住宅、大規模集客施設それぞれに全国トップレベルの手厚い助成を行います。

○東海・東南海・南海3連動地震の津波避難困難地域における居住者の避難時間を確保するため、港湾・漁港・河川の堤防などについて耐震・耐津波機能診断を行い、堤防などの嵩上げや耐震化などを実施。今後、約10年間(平成27~36年度)で、対策を計画的に実施 **8億2,542万円(総事業費約460億円)**

○被災後の避難生活者を受け入れることができるホテル、旅館や災害に自力での避難が困難な者がいる病院、幼稚園等の大規模建築物の耐震改修を全国トップレベルの制度で支援 **90億2,332万円**

○住宅倒壊による犠牲者ゼロを推進するため、耐震ベッド・耐震シェルターの設置を新たに補助メニューとして追加 **1億3,675万円**

#### 風水害・土砂災害対策

台風や局地的豪雨などによる風水害や土砂災害が毎年のように発生しています。

このため、市町村の的確な避難勧告等の発令を支援し、中小河川の改修やため池の改修を加速化するなど、河川流域の総合的な洪水対策を推進し、特に紀ノ川流域においては、平成26年度から平成40年度まで国営総合農地防災事業による農地湛水被害対策の推進を図っているところ。崖崩れや地すべり対策を年々強化する一方で、土砂警戒区域の指定は遅れているので、土砂災害危険箇所の基礎調査を加速化していく方針です。

○近年増加傾向にある局地的な集中豪雨や台風による水害等の被害軽減を図るため、中小河川の整備や国営総合農地防災事業による対策を推進 **50億2,712万円**

○土砂災害についての研究や危険性の啓発に活用するため、国の「大規模土砂災害対策技術センター」を那智勝浦町の「和歌山土砂災害啓発センター(平成28年4月オープン予定)」に誘致 **8,140万円**

### 切れ目のない少子化対策の推進

県内出生率は年々減少傾向にあり、平成25年は7,122人と前年比約300人減少しています。合計特殊出生率も平成18年の1.34から平成25年は1.52と改善傾向にあるものの、人口維持に必要とされる2.07には届いていません。そこで、少子化対策として、「出会い・結婚」「妊娠・出産」「子育て」それぞれのステージを切れ

目なく支援する対策を強力に推進していきます。

④新成人など、これから結婚を考える若い世代に、結婚・子育ての喜びや大切さを知ってもらうため、プラスイメージを発信するポジティブキャンペーンを県内各地で展開 **968 万円**

④保育や子育て支援の担い手従事者の質と人数を確保するため、県で子育て支援員養成研修を実施するなど、安心して子どもを育てられる環境づくりを推進 **1,186 万円**

## わかやまの老後に安心を届ける政策

高齢者に地域で自立した生活を安心して送ってもらうため、地域の「見守り」体制の構築や、生涯現役社会の実現に向けた「健康」づくり、高齢者のニーズに応じた住まいと暮らしの「安心」確保、介護・福祉の「産業化」という「わかやまの老後に安心を届ける政策」を総合的に推進していきます。

○将来的な要介護認定者の増加と、それに伴う施設入所希望の増加に対応するためには、2030 年までに約 2 万 1 千床の確保が必要となることから、特別養護老人ホームや認知症高齢者グループホームなどの整備を計画的かつ着実に推進 **13 億 6,310 万円**

④可能な限り住み慣れた地域で安心して生活することができるよう、地域見守り協力員などによる見守り体制の強化や外出支援、在宅介護サービスの充実とともに、医療と介護の連携により自宅で医療を受けられる体制づくりを推進することにより、それぞれの地域の特性にあった「地域包括ケア」の実現を目指す **1 億 1,558 万円**

## 地域医療体制の整備

今後、高齢者の増加に伴う医療需要の増大が見込まれ、これまでの入院治療を中心とした医療提供体制では、症状に応じた適切な医療を継続的に受けられなくなるおそれがあります。医療需要を的確に予測し、医療を提供する病院等の体制の再編を行います。

④急性期から回復期、慢性期、在宅医療・介護に至るまで一連のサービスが切れ目なく提供されるよう、各医療機能の将来必要量の分析に基づき「地域医療構想(ビジョン)」を策定し、適切な病床配置に再編 **353 万円**

④高齢者等が在宅でも安心して暮らせる環境を実現するため、関係団体や市町村とともに在宅医療体制の全県的な制度設計を行い、かかりつけ医の確保などの体制を整備 **6,228 万円**

## 【未来への投資】

### 投資活動の促進

わが国の経済は、国の「三本の矢」からなる経済対策により、回復基調にあり、経済の好循環が生まれ始めています。加えて、国の「地方創生」の取組が本格化していくなかで期待される地方の景気回復に向けた取組を進める必要があります。

さらに、和歌山県では、高速道路をはじめとする社会インフラが急速に整いつつあり、未来に向けた民間の投資活動を促進する絶好のチャンスが訪れています。

「元気な和歌山」の実現のためには、民間の力を伸ばすことが重要であり、国や政府系金融機関等の施策も総動員し、和歌山経済の発展のための投資活動を促進します。

○先駆的産業分野で全国・海外で競争できる技術開発や中小企業と大学等との共同開発など、新技術・新製品等の開発を試作品開発から販路開拓まで総合的に支援し、“ものづくり革命”を起こす **6 億 4,372 万円(一部平成 26 年度補正)**

○新たな設備投資に利用できる県融資制度の「成長サポート資金」や、中小企業の創業を助ける新規開業資金の一部を最優遇金利とするなど、中小企業のやる気を支援するため融資制度を大幅に拡充 **新規融資枠 900 億円**

④プレミアム和歌山の認知度向上と消費の拡大を図るため、地域住民生活等緊急支援のための交付金を活用し、プレミアム和歌山推奨品を割引価格で販売する全国キャンペーンを実施 **4 億 5,800 万円(平成 26 年度補正)**

### 強い農林水産業

農林水産業は、本県の地域経済を支える基幹産業のみならず豊かな自然を守る重要な役割を担っています。しかし、後継者の減少や高齢化、所得の低迷といった問題など農林水産業を取り巻く環境はますます厳しくなっています。

このため、強い農林水産業を実現し、地域を「元気」にするため、生産性の向上や高付加価値化による競争力の強化、経営規模の拡大や担い手の確保などに積極的に取り組み、加えて海外市場も見据えた攻めの販路拡大などの施策を総合的・戦略的に展開します。

○競争力のある農林水産物づくりのため品質基準を満たした“おいしいみかん”を厳選出荷するシステムの構築、高品質果実の生産や流通のための施設整備、新戦略商品開発など総合的に支援 **1億1,600万円**

○優良農地の掘り起こしや選別、受け手農家とのマッチングなどを支援し、農地の集積・流動化を促進するとともに、青年就農給付金等により青年の就農意欲の喚起と定着を促進 **5億2,386万円(一部平成26年度補正)**

○漁獲技術の進歩や磯焼けにより資源の減少が深刻化する中、漁獲量を抑制することによる資源管理が不可欠であり、小型機船底引き網漁業における減船やあらかじめ漁業者別に漁獲量を割り当てる仕組み(IQ)の導入を推進 **1,726万円**

## 観光の振興

平成25年の県内外国人宿泊数は、過去最高の21万人を記録し、さらには、円安の影響や消費税免税制度の拡充などにより、今後も大きな伸びが期待されるため、W i - F i や多言語案内看板を整備するなど、外国人観光客の受入体制を強化していきます。

○県内泊の旅行代金の大幅割引や外国人観光客に「県産品」をプレゼントするなど、地域住民生活等緊急支援のための交付金を活用し、多様な特典付きの旅行商品やサービスを期間限定で提供する和みわかやまプレミアムキャンペーンを実施(平成27年9月～平成28年3月) **8億円(平成26年度補正)**

○エルトゥール号の映画公開やNHK大河ドラマ「真田丸」の放送など、「和歌山県」の露出度がアップする絶好の機会をとらえ、メディアを活用した誘客活動を実施 **6,985万円**

## 都市の再生と魅力ある地域づくり

住宅や店舗の無秩序な拡散は都市中心部の空洞化と都市近郊の優良な農地の減少を引き起こしており、地方の活力を取り戻すため、中心市街地の活性化と郊外の開発を抑制することが必要です。

このため、郊外での新規開発の抑制を盛り込んだまちづくりに関する計画の策定を推進します。また、中心市街地などの再開発を促進するための取組、都市機能の充実を図るための道路や公共交通などの利便性向上に向けた取組を推進します。

○市町と連携し、郊外での優良農地の転用を原則認めない等、新規開発抑制を含んだまちづくりに関する計画策定を推進 **2,000万円**

○道路の渋滞解消や交通の円滑化を図るなど中心市街地の利便性を向上させる都市計画道路整備を推進するため、県と市町の役割分担の見直しを実施 **16億2,520万円**

## 和歌山への移住推進と地域の元気づくり

人口減少や少子高齢化は、産業の衰退やコミュニティの崩壊による伝統文化の喪失につながるなど大変深刻な問題となっています。

このため、過疎化や担い手不足などを解消し、地域を「元気」にするため、和歌山への移住や定住に積極的に取り組みます。

○40歳未満の若年移住者への奨励金や、移住希望者に仕事・生活情報を提供する地域しごと支援センターの開設、空き家バンクの創設及び定住支援住宅管理機構による空き家の掘り起こしなど、地域住民生活等緊急支援のための交付金を活用し、移住者受入体制を強化 **4億3,954万円(一部平成26年度補正)**

## 教育と文化の振興

子どもたちを心豊かでたくましく自立した個人に育てるため、「学力の向上」・「道徳教育」・「体力の向上」・「郷土教育」・「国際人の育成」・「就職支援」の取組を推進し、和歌山の次代を担う子どもを育成します。

○全英語教員のTOEIC受験や県立学校における英語教育環境の充実など、学生の英語力向上に向けた取組を総合的に推進 **1億7,781万円**

●平成26年度わがまち元気プロジェクト決定！

・県では、地域固有の資源(農林水産物、町並み、歴史・文化等)を活用し個性豊かで活力ある地域づくりを推進する市町村等に対し、「わがまち元気プロジェクト」として平成21年度から500万円(3カ年以内)を限度に支援しています。これまで13のプロジェクトを支援し、特産品の販路拡大や新たな観光商品の造成など多くの成果を挙げてきました。

・この度、新たに橋本市の「はしもと河南エリア「恋野・学文路」魅力アッププロジェクト」、南紀エリアスポーツ合宿誘致推進協議会の「南紀エリア「広域連携スポーツ合宿誘致」プロジェクト」への支援を決定しました。

○はしもと河南エリア「恋野・学文路」魅力アッププロジェクト(事業実施主体：橋本市)

・地域特有の土壌により太く長く育ち、香り高く柔らかい幻のごぼう「はたごんぼ」は、数十年前に栽培がいったん途絶えていましたが、「はたごんぼ」を特産品に育てようと、住民の方々が復活させ、栽培に取り組んできました。この住民の活動と要望から実現した農産物直売等の施設「くにぎふれあいの里」が、早ければこの4月にオープンします。はたごんぼは、和歌山らしさのある優れた県産品を認定する今年度の「プレミアム和歌山」推奨品のうち、特に優れた産品に贈られる審査委員特別賞に輝いています。



はたごんぼ



紀州へら竿

・この施設では、はたごんぼ・野菜収穫体験などの交流活動を実施するほか、はたごんぼや恋野マッシュルーム等の加工品及びメニュー開発など地元食材の加工開発と販売を促進します。また、「紀州へら竿の聖地」隠れ谷池を観光交流拠点として整備し、「紀州へら竿」の認知度アップにも取り組みます。はしもと河南エリア「恋野・学文路」については、統一ロゴマークデザインの創作、エリアマップやホームページの作成により魅力を発信します。・こうした取組により、平成29年における観光客数8万5千人(平成25年:5万4千人)、新規10商品の開発、くにぎふれあいの里売上額1,250万円(同年(仮店舗):450万円)を目標とします。

○南紀エリア「広域連携スポーツ合宿誘致」プロジェクト(事業実施主体：南紀エリアスポーツ合宿誘致推進協議会)



・紀の国わかやま国体開催に合わせて整備中の田辺スポーツパークと、上富田スポーツセンターを中心に多くのスポーツ施設が集積する南紀エリアは、温暖な気候や豊かな自然に恵まれています。また、京阪神から近距離に位置するなど好条件を備えているため、4市町(田辺市、白浜町、上富田町、すさみ町)連携のもとスポーツ合宿の誘致に取り組むことで、地域の活性化を目指します。

・同協議会では、各市町のスポーツ施設の1年先までの空き情報をHP上で発信したり、スポーツ施設、宿泊施設等を掲載したパンフレットを作成したりするほか、宿泊施設及びスポーツ施設に対し専門家等による研修会を実施し、受入体制の充実を図ります。また、スポーツ団体や大学、旅行会社等への誘致活動や、現地での説明会開催など、効果的なプロモーションを実施します。そのほか、オフシーズンや平日に合宿を行った団体に対して、施設使用料の一部を支援します。さらに、地域の子どもを対象とした各種スポーツ教室の開催など、地域交流促進に資する活動を支援し、合宿中に参加するほんまもん体験に係る経費を支援することで、プラス1泊やりピーター獲得を図ります。

・こうした取組により、平成29年における県外からのスポーツ合宿者数5万6千人(平成25年:2万6千人)、南紀エリア内の消費額11億円(同年:5.2億円)を目標とします。

●「第9回わかやま産品商談会 in 大阪」開催！

・2月2日、大阪マーチャндаイズ・マート(大阪市中央区)において、県内の農水産物・加工食品の販路拡大を促進するため、「第9回わかやま産品商談会 in 大阪」を開催しました。今回も、「おいしい！健康わかやま」をテーマに、特色ある県内の生鮮食品・加工品・お酒・スイーツなどが集結しました。



・商談会の冒頭、仁坂知事は来場されたバイヤーに、「和歌山から自慢の商品を持参した。和歌山の食は美味しいだけでなく体に大変よい。是非、よいものを発見していただきたい。」と和歌山の食材をPRしました。この商談会には新規出展20業者を含む73社が出展し、百貨店・スーパーの商品仕入担当者や外食産業の関係者に自慢の商品をアピールするとともに、通販大手の株式会社 フェリシモのバイヤーによる個別商談会も併せて実施しました。このうち21社は、県が生産・製造業者を対象に実施してきた商談会成約率アップのためのセミナーに参加しており、セミナーで取得したスキルを活かして商談に挑みました。

・また、県産食材の魅力を前面に押し出した企業とのコラボ商品「バニラヨーグルト 有田みかん(日本ルナ 株式会社)」や「紀州梅バーガー」の紹介コーナー、インターネットで県産品が閲覧できる「和歌山県産品データベース(県のHPから閲覧できます。)」体験コーナーなども場内に設け、注目を集めました。来場者数は過去最高の557人と大盛況で、和歌山の食材を売り込む絶好の機会となりました。

●「スーパーマーケット・トレードショー2015」に出展！

・2月10日から2月12日の3日間、東京ビッグサイト(東京都江東区)で開催された「スーパーマーケット・トレードショー2015」に、和歌山県ブース「わかやま紀州館」を出展しました。この展示会は、スーパーマーケットを中心とする流通業界に最新情報を発信する国内最大級のプロ向けの商談展示会で、県は7回連続の出展となりました。



・梅干しや果実加工品、リキュール、ごま豆腐、イノブタ加工品、めはり寿司など、和歌山ならではのバラエティに富んだラインアップで、過去最大規模となる14小間の県ブースに、県内の以下の24事業者が出展しました。

・首都圏をはじめ全国のバイヤーが3日間で8万人以上参加する中、おいしくて健康にもよい県産食材を大いにPRし、こだわりの県産食材の全国への販路拡大が期待されます。

事業者名	商品	事業者名	商品
(株)いなみの里梅園	梅干、梅干加工商品等	J A ありだ	有田みかんジュース等
井上梅干食品(株)	紀州南高梅等	(株)伊藤農園	100%ビュアジュース・果汁等
(株)岩本食品	梅干、美梅酢等	(株)イブファーム	イノブタ肉加工品等
河本食品(株)	梅干、梅干加工食品等	J A 紀北かわかみ	まるごと柿酢、スカッと柿酢等
紀州田辺うめ振興協議会	冷凍梅、梅干等	熊野の里(株)	冷凍みかん、お助けご飯
J A 紀州	塩零梅、tomato-ume 等	(株)小南農園	田村みかんゼリー等
せきもとフーズ(株)	梅干、梅干加工品等	(株)酒のかまくら	紀州柑々屋 みかん酒シリーズ
梅光園ワールド商会(株)	太古のええ塩梅シリーズ等	(株)世界一統	リキュール「和歌のめぐみ」シリーズ
(株)濱田	有機梅干、梅関連商品等	(株)大覚総本舗	高野山ごま豆腐
(有)深見梅店	梅干、梅干加工商品等	(有)樽の味	熟成ぬか床、浅漬けの素等
(株)丸惣	有機梅干、梅ゼリー等	中田食品(株)	紀州の梅酒各種
マルヤマ食品(株)	紀州産しそ漬梅等	(株)八旗農園	桃ピューレ

●築野食品工業 株式会社の「山椒香味油」が農林水産大臣賞を受賞！

・築野食品工業 株式会社(かつらぎ町)が製造し、県が推薦した「山椒香味油」が、平成26年度優良ふるさと食品中央コンクールにおいて、新製品開発部門で最高位の農林水産大臣賞を受賞しました。

・一般財団法人 食品産業センターが昭和63年から実施しているこのコンクールは、新技術開発部門・新製品開発部門・国産農林産品利用部門・国産畜水産品利用部門の4部門ごとに農林水産大臣賞1点、同センター会長賞5点等が表彰されます。さらに、同社は、食品産業で経営や技術革新などに優れた成果を挙げている企業を讃える「食品産業優良企業等表彰事業」においても、食品産業部門の最高位である農林水産大臣賞を受賞と、ダブル受賞となりました。

・この「山椒香味油」は、県内の生産者や食品メーカー、県試験研究機関などで構成され、付加価値の高い食品の開発を推進する「和歌山県食料産業クラスター協議会」の第1号開発商品です。

・和歌山の「ぶどう山椒」の香りを最大限に引き出すため粉碎の熱で香りが飛ばないように臼挽きされた粉末と、素材の風味を引き立てる米糠を原料とするこめ油で仕上げられています。採れたての山椒のように芳醇な香りと、口の中に広がる程よい刺激を、皆さんもサラダやパスタに冷や奴で、是非お楽しみください。http://www.tsuno.co.jp/



●ナカダ産業 株式会社、株式会社 本家さぬきやが「企業の森」に係る協定に調印

・2月3日、獣害防止ネット等を製造販売している ナカダ産業 株式会社(静岡県島田市)及び外食事業、ホテル・旅館事業等を行っている 株式会社 本家さぬきや(大阪府泉大津市)が、それぞれ田辺市、日高川町において、県の「企業の森」事業を活用し森林保全活動を実施することとなり、協定の調印式を開催しました。先月号でも「企業の森」の活動を紹介しましたが、今月も2社が参画することとなりました。

・調印式において、仁坂知事はお礼とともに、「日頃都会で過ごすことの多い企業の方々が、山仕事するのもいい経験になるかと思う。そして、地元の人とも交流していただきたい。」と述べ、ナカダ産業(株) 蓑川 和道社長は、「繊維のネットを作る会社として、15年以上前から和歌山県の森林組合にお世話になっていた。何かお返しできる事はないかと思い、参画させていただいた。」、(株)本家さぬきや 平野 誠社長は、「創業者である父の出身地であり私自身も高校卒業まで暮らしていた日高川町、和歌山県に少しでも恩返しできないかと思い決定した。」と、それぞれ参画理由について話されました。

・両社の参画により、参画団体数は64企業・団体、活動場所は66箇所となりました。

○ナカダ産業株式会社「ナカダ産業まったくんの森」の概要

実施地：田辺市中辺路町近露の山林 0.47ha

田辺市龍神村福井の山林 0.23ha

植栽樹種：コナラ、ヤマザクラ、ケヤキ、ヤマモミジ等広葉樹 940本

ヤマザクラ、クヌギ等広葉樹 690本

○株式会社本家さぬきや「感謝の森」の概要

実施地：日高川町姉子の山林 0.37ha

植栽樹種：コナラ、ヤマザクラ、ケヤキ、シバグリ等広葉樹 600本





### ●県産みかんジュースがP e a c hの機内食のメニューに採用！

・3月1日から、格安航空会社(LCC)P e a c hの機内食「PEACH DELI」のメニューに 株式会社 早和果樹園(有田市)のみかんジュース「飲むみかん」が採用されることになりました。採用されるのは、国内線10路線・国際線7路線の全路線で、販売価格は300円(200ml)です。

・これは、県が国内外での「わかやま産品」ファン獲得を目的として、航空会社各社の利用客をターゲットに、航空会社に食材提案するなど販路開拓活動に取り組んできたことによるものです。

・この「飲むみかん」は、12月以降に収穫された有田みかんだけを使用し、果皮をむいて薄皮ごとしぼる「チョッパー・パルパー」という方式で搾った本格派100%ストレートみかんジュースで、平成24年5月に開発された商品です。まるでみかんを食べているかのような「濃厚なのに後味がすっきりした味わい」が特徴となっています。

・皆さんも、P e a c hを御利用の際は、是非お買い求めください。また、(株)早和果樹園のHPからも購入できます。<http://sowakajuen.com/>



### ●第2回南紀熊野ジオパークフェスタ開催！



・2月22日、潮岬青少年の家(串本町)において、南紀熊野ジオパーク推進協議会(会長：仁坂知事)及び近畿地方環境事務所の主催で「第2回南紀熊野ジオパークフェスタ」を開催しました。

・このイベントは、南紀熊野地域が昨年8月、日本ジオパークに認定されたことを記念するとともに、南紀熊野ジオパークと吉野熊野国立公園等との連携について、地域関係者や一般の方々の認知、理解を深めることを通して、南紀熊野地域の持続可能な地域づくりを目的として開催したものです。

・シンポジウムの冒頭、仁坂知事は、「南紀熊野ジオパークは、日本ジオパーク認定の際に、ジオパークガイドを中心とする地域の盛り上がり进行评估してもらった。さらに勉強を重ね、南紀熊野の大地の成り立ちを世界中の人に説明できるようなジオパークにしたい。」と挨拶しました。

・その後、南紀熊野ジオパーク推進協議会名誉顧問であり 独立行政法人 海洋研究開発機構理事長 平 朝彦 氏から『南紀熊野、「ちきゅう」、そして地球』と題した基調講演で、「南紀熊野には、地球の巨大な力とそこに生きる人々の営みを理解する豊富な見所があり、地域の人々の暮らしに役に立ち、元気を作るジオパークを皆で育てていきたい。」とお話いただきました。引き続き、日本ジオパーク委員会委員であり 時事通信社 解説委員 中川和之氏から『まるごと使おう「ジオパーク」』と題した基調講演で、全国のジオパークの取組や、ジオパークの歩みと今後について紹介していただきました。

・このほか、ジオ発表会やジオパネル展示、ジオ物産販売なども実施し、フェスタの会場には、地域の方々など約1,000人が参加する中、南紀熊野ジオパークの取組について、理解を深める1日となりました。



●オーストラリア陸上チームの北京世界陸上の事前キャンプ地が和歌山県に決定

・この度、オーストラリア陸上チームが、今年8月22日から8月30日にかけて北京で開催される「第15回世界陸上競技選手権大会(北京世界陸上)」における事前キャンプを、和歌山県(紀三井寺公園陸上競技場)で開催することに決定しました。これは、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの事前キャンプ誘致に向けて、県が推進してきたところ、昨年10月、オーストラリア陸上競技連盟の責任者2名が県内の陸上競技施設等を視察し、フィールドが天然芝でトラックの水はけがよいことや、関西国際空港へのアクセスの良さなどが評価されたものです。

・8月8日から8月26日の19日間実施されるこのキャンプには、選手50名、コーチ・ドクター等29名の最大79名が参加予定であり、ロンドン五輪金メダリストの サリー・ピアソン選手(女子100mハードル)や同銀メダリストの ジャレド・タレント選手(男子競歩)などの有力選手も参加見込みです。

・オーストラリア側は、北京世界陸上のほか、2017年ユニバーシアード(台湾：台北)、2020年東京オリンピックの事前キャンプを、可能な限り和歌山市で行う意向であり、今後は、関係団体やボランティアの方々に御協力をいただきながら、受入体制に万全を期していきます。

●第15回全国障害者スポーツ大会「紀の国わかやま大会」の大会メダルが完成!

・この度、紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会実行委員会が、「紀の国わかやま大会」入賞選手の功績をたたえるメダルを完成させました。このメダルは、県工業技術センターと紀州漆器協同組合の協同で制作したデザインをもとに、同協同組合が制作したもので、素材には紀州材のヒノキが使用され、紀州漆器の技法が用いられています。また、表面には県木ウバメガシを描くことで和歌山の特色あふれるメダルとなっています。

・このメダルは、紀の国わかやま大会において、1位から3位までに入賞した選手に授与されますが、視覚障害のある方にもメダル獲得をより喜んでいただけるように、裏面には点字で順位を表記しています。

(直径：約55mm、厚さ：約5mm、素材：紀州材(ヒノキ)・真鍮)

	金メダル	銀メダル	銅メダル
(表面)			
(裏面)			

●県スポーツ賞表彰式を開催しました！！

・2月18日、和歌山市のホテルアバローム紀の国において、県スポーツ賞の表彰式を開催しました。この賞はスポーツ水準の向上や振興に貢献、または、素晴らしい成績を残した選手や団体に与えられるもので、53回目となる今回は、スポーツ功労賞、スポーツ優秀指導者賞、スポーツ顕賞など5つの賞に、個人145名と39団体が選ばれました。



・仁坂知事はお祝いの言葉とともに、「今年は、紀の国わかやま国体・大会の開催年。来年の表彰式は、この会場を広げて開催できるくらい活躍して欲しい。」と期待を込め、受賞者を代表してスポーツ優秀指導者賞の吉田 儀人さんが、「今回の受賞を胸に刻んで、和歌山のために精一杯努力します。」と述べました。

・今回は、第45回世界体操競技選手権大会で男子団体2位、個人総合3位に輝いた 田中佑典 選手のほか、7歳から79歳の方まで様々な競技で活躍されている幅広い年代の方々が表彰されました。主な受賞者は以下のとおりです。 (敬称略、順不同)

スポーツ功労賞：スポーツの振興に著しい功績を挙げた方々			
坂口全彦	ジュニアの普及や強化育成に尽力し、ソフトテニス競技の振興に貢献		
丸田 篤	県水泳連盟の役員として、地域間の水泳連盟の連携や選手強化に尽力		
山路 明	オリンピック選手の輩出や指導者育成などレスリング競技振興に貢献		
スポーツ優秀指導者賞：スポーツ選手の育成に尽力した方々			
吉田儀人	日本トップクラスの選手を育てるなど、水泳競技の競技力向上に貢献		
スポーツ顕彰：国際的な大会で優秀な成績を挙げた方々			
川畑源大	ウェイトリフティング 競技	嶋本麻美	ウェイトリフティング 競技
阪本直也	カヌー 競技	窪木一茂	自転車 競技
山本耕平	水泳 競技	中村智太郎	水泳 競技
多田桃子	セーリング 競技	桂 拓也	ソフトテニス 競技
田中佑典	体操 競技	北田千尋	バスケットボール 競技
西岡詩穂	フェンシング 競技	和田翔吾	ボウリング 競技
日吉染業(株)ヨット部 エストコスモス・日本代表チーム	セーリング 競技	和歌山クラブ	フェンシング 競技
		和歌山Aチーム	ボウリング 競技

●東海和歌山県人会総会・懇親会開催！

・2月5日、「東海和歌山県人会総会・懇親会」が、名古屋国際ホテル(名古屋市中区)において盛大に開催されました。懇親会の開会にあたり、山口 春三会長は、「今年は国体開催の年。会員の皆さんから寄付をいただき、県人会としても役に立てたかなと思う。皆さんも応援に行っていただきたい。」と挨拶されました。



・続いて仁坂知事は、「紀の国わかやま国体・大会」の開催、高野山開創1200年と今年の県内の大きな行事を紹介。来年以降も、エルトゥール号を題材とした映画の公開、NHK大河ドラマ「真田丸」の放映、2021年関西ワールドマスタースズの開催等で県内が盛り上がることを話し、さらに、インフラの整備状況、観光振興など県の施策を幅広く紹介しました。その後、「きいちゃん募金」に多額の寄附をいただいた東海県人会に、感謝状を贈呈しました。また、サプライズゲストで 愛知県 大村 秀章知事が急遽参加され、「ふるさと東海・愛知の絆を強くして盛り上がれば、日本も元気になる。」と挨拶されました。

・懇親会では、鏡開きに引き続き、マグロが解体されて参加者に振る舞われたほか、ウインズ平阪さんのミニLIVEや県産品コーナー、抽選会と今年も大いに盛り上がりました。

**イベント情報(3月11日～4月10日)**

期間	行事名	場所	問い合わせ先
3/14～ 6/28	大漁マグロ祭り	和歌山市・黒潮市場	黒潮市場 073-448-0008
3/15	涅槃会	和歌山市・了法寺	了法寺 073-471-1376
3/15	生石高原山焼き	紀美野町、有田川町 ・生石高原	紀美野町産業課 073-489-2430 有田川町商工観光課 0737-52-2111
3/20～ 4/20	桜祭り	和歌山市・紀三井寺	紀三井寺 073-444-1022
3/25	和歌浦天満宮大祭	和歌山市・和歌浦天満宮	和歌浦天満宮 073-444-4769
3/29	桜・舞・道成寺	日高川町・道成寺	日高川町企画政策課 0738-22-2041
3/29	孫市まつり	和歌山市・ 本願寺鷺ノ森別院	孫市の会 073-423-3136
4/1～ 4/13	十三詣り	和歌山市・紀三井寺	紀三井寺 073-444-1002
4/3	ひな流し	田辺市・伊作田稻荷神社	田辺観光協会 0739-26-9929
4/3	熊野速玉大社 新宮神社例祭(さくら祭り)	新宮市・熊野速玉大社	熊野速玉大社 0735-22-2533
4/4 4/5	桃山まつり	紀の川市・桃山グラウンド	同実行委員会 0736-77-2511
4/5	菓子まつり	海南市・橋本神社	橋本神社 073-494-0083
4/5	木祭り	和歌山市・伊太祈曾神社	伊太祈曾神社 073-478-0006
4/8	春の万燈会	海南市・浄土寺	浄土寺 073-482-0243



桜が満開の季節に、道成寺境内に特設舞台が設置され、舞踊公演が行われます。能、人形浄瑠璃、歌舞伎、日本舞踊、琉球舞踊、邦楽など、多くの作品がありますが、分野と出演者が毎年入れ替わりながら、その芸を披露します。

自然・風物情報(3月中旬～4月上旬)

時期	自然・風物名	場所	問い合わせ先
3月中旬	ハクモクレン見ごろ	田辺市・ ハウスシイタケ生産組合	中辺路観光協会 0739-64-0501
3月中旬	菜の花見ごろ	橋本市・小峰台	橋本市観光協会 0736-33-3552
		上富田町・市ノ瀬	上富田町総務政策課 0739-47-0550
3月中旬	クリスマスローズ見ごろ	田辺市・新庄総合公園	田辺市管理課 0739-26-9966
3月下旬	ツキノワグマのベニー 冬眠からお目覚め	和歌山市・和歌山公園	和歌山城整備企画課 073-435-1044
3月下旬	サクラ(標準木)の開花	和歌山市・紀三井寺	紀三井寺 073-444-1002
3月下旬	シダレサクラの開花	田辺市・近露	中辺路行政局 0739-64-0501
4月上旬	サクラ満開(県内各所)	和歌山市・和歌山城	和歌山城管理事務所 073-435-1044
		岩出市・根来寺	岩出市農林経済課 0736-62-2141
4月上旬	桃源郷モモ満開	紀の川市・桃山町	紀の川市商工観光課 0736-77-2511
4月上旬	シラス漁最盛期	湯浅町ほか	湯浅湾漁協 0737-62-4581
4月上旬	こいのぼりの丹生川渡し	九度山町・入郷	九度山町商工会 0736-54-4268
4月上旬	姫ひじきの収穫始まる	串本町・姫の磯	和歌山東漁協西向支所 0735-72-0176
4月上旬	すさみケンケン鯉最盛期	すさみ町・すさみ漁港	県水産試験場 0735-62-0940



紀の川市・旧桃山町は、その名前が示すとおり全国的にも有名な桃の産地です。うららかな光を浴びて10万もの桃の花が開く様子は、まさに「桃源郷」です。満開時には、辺り一面にピンクのじゅうたんを敷き詰めたように桃の花のパノラマが広がり、その風情を楽しもうと多くの花見客が訪れます。

～編集後記～

冬ごもりしていた生き物も顔を出し始める季節を迎えましたが、皆さんはいかがお過ごしでしょうか。2月の下旬には、春一番が吹いた地方もあり、春はすぐそこといった感じです。

さて、県内では、みなべ町と田辺市が誇る全国屈指の梅林が、今年も多くの観光客で賑わいました。和歌山県自慢の梅の収穫量は50年連続日本一であるものの、全国では1世帯当たりの消費量は減少しています。先月号でもお知らせしましたが、県では、この地域の梅生産システムを世界農業遺産にしようと、地元の方々とともに取り組んでいるところであり、登録が実現すれば、国内外における知名度が上がり、さらなる観光の振興はもちろん、梅の消費拡大にも期待が持てます。

こうした中、一昨年田辺市で制定された「梅酒で乾杯条例」に引き続き、昨年はみなべ町において「梅干しでおにぎり条例」が施行されました。2月15日には梅干し入りのおにぎりを握る人数でギネス世界記録に挑み、5分間で428人が成功し記録が認定されました。皆さんもおにぎりを作る際は紀州の梅をお使いいただき、県産梅を使用した本格梅酒を御愛飲いただければと思います。梅は健康にも良いので、消費拡大と皆さんの健康増進と、まさに一石二鳥です。

梅製品をはじめとする「ふるさとの味」については、東京では、わかやま紀州館で各種取りそろえておりますので、是非お買い求めください。また、県のホームページでも「プレミアム和歌山」を紹介しておりますので、よろしくお願ひします。

日に日に暖かくなり、春を感じられる季節となり、段々活動的になってきましたが、私は花粉症に悩まされそうです。皆さんもくれぐれも御注意ください。

今年度も「和歌山だより」をお読みいただき、ありがとうございました。来年度で8年目になります。引き続きよろしくお願ひいたします

知事室秘書課長 森田 康友

★「和歌山だより」Web版を和歌山県ホームページにアップしています。Web版ならではの美しい画面を楽しんで頂けますので是非ご覧下さい。

和歌山だよりに対するご意見・ご感想をお聞かせ下さい。また、皆様がお持ちの和歌山に関する情報をご提供下さい。今後、皆様のお声を紙面づくりに活かしていきたいと考えています。

(下記のFAX(様式自由)、E-Mail等でお願ひします。)

■FAX 073-422-4032

■E-mail e0001003@pref.wakayama.lg.jp

和歌山県のホームページ

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/>

ふるさと和歌山応援サイト <http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/furusato/>

\*個人情報につきましては、「和歌山だより」の発行以外の目的には、使用いたしません。



2015年(平成27年)3月 NO.83

和歌山県 秘書課

〒640-8585 和歌山県和歌山市小松原通1-1

TEL 073-441-2022